

令和元年度事業報告

(平成31年4月1日—令和2年3月31日)

I. 会員数 (令和2年3月31日)

(1) 名誉会員

平成31年3月31日会員数	5名	
名誉会員現在数	5名	(0名減)

(2) 正会員

平成31年3月31日会員数	1,074名	
令和元年度新入会員数	74名	
令和元年度退会者数	94名	
内訳	希望退会者	94名
	物故者	0名
正会員現在数	1,054名	(20名減)

(3) 維持会員

平成31年3月31日維持会員数	88社	
令和元年度入会社数	4社	
令和元年度退会社数	0社	
維持会員現在数	92社	(4社増)

II. 機関誌送本および販売数

(1) 送本数	会員区分	送本数
国内	名誉会員	12冊
	正会員	1,350冊
	維持会員	661冊
国外	正会員	9冊
	小計	2,032冊
(2) 販売数		69冊
(3) 贈呈数	箇所数	送本数
国内	寄贈	27冊
国外		15冊
	小計	42冊
	合計機関誌送本数	2,143冊 (695冊減)
(4) その他		

機関誌を広告代理店に提供、バックナンバーとして販売。残部は在庫。

III. 第66回通常総会

開催年月日： 令和元年5月16日

開催場所： 福岡国際会議場

IV. 理事会、理事・評議員懇談会

(1) 理事会 3回開催

① 第1回 開催年月日： 平成31年4月22日

開催場所： 東京大学農学部3号館1階会議室

② 第2回 開催年月日： 令和元年11月15日

開催場所： 中央大学駿河台記念館

③ 第3回 開催年月日： 令和2年3月13日

開催場所： 書面審議

(2) 理事・評議員懇談会 1回開催

開催年月日： 令和元年5月14日

開催場所： 福岡国際会議場

V. 定期学術集会の開催

第66回日本実験動物学会総会を下記のとおり開催した。

会期： 令和元年5月15日(水)～17日(金)

会場： 福岡国際会議場

会長： 小野悦郎(九州大学大学院医学研究院)

参加者： 1,326名

VI. 定期刊行物の発行

「Experimental Animals」および「実験動物ニュース」を下記のとおり発行し、会員に希望配布した。

発行年月日	巻	号	備考
平成31年4月1日	68	2	
令和元年7月1日	68	3	
令和元年10月1日	68	4	
令和2年1月1日	69	1	完全電子化

VII. 研究の奨励、業績の表彰

(1) 令和元年度学会賞受賞者を表彰した。

1) 功労賞(3名、五十音順)

伊藤喜久治 会員（日本エスエルシー株式会社）

小幡裕一 会員（理化学研究所バイオリソース研究センター）

芹川忠夫 会員（京都疾患モデル研究所）

2) 安東・田嶋賞（1名）

浅野雅秀 会員（京都大学）

「遺伝子改変技術に基づく多彩な生命現象の理解と疾患モデルの開発～糖鎖、エピジェネティクス、サイトカイン関連遺伝子の解析から～」

3) 奨励賞（2名）

井上貴史 会員（実験動物中央研究所）

「コモンマーマウスによるヒト疾患モデル開発のための獣医学的研究」

宮田治彦 会員（大阪大学微生物病研究所）

「ゲノム編集技術を用いた精子機能の解析」

4) 2018年 Experimental Animals 最優秀論文賞（1編）

秋山健太郎、蕨 栄治、岡田浩介、柳川 徹、石井哲郎、巨瀬勝美、徳重克年、石毛和紀、溝上裕士、山縣憲司、鬼澤浩司郎、有泉俊一、山本雅一、正田純一
Deletion of both *p62* and *Nrf2* spontaneously results in the development of nonalcoholic steatohepatitis

「*p62*・*Nrf2* 二重欠損マウスは非アルコール性脂肪性肝炎を自然発症する」

(2) 2018年日本実験動物学会国際賞の表彰を行った。

2018年受賞者（5名）

マレーシア : Ms. Nur Syafinaz Zainal

フィリピン : Ms. Charmaine R. Peredas

スリランカ : Ms. Hesika Varnakulasingham

タイ : Ms. Ratchaneevan Aeimlapa

シンガポール : Dr. Sai Bo Bo Tun

(3) 令和2度学会賞受賞者を選考した。

1) 功労賞（2名、五十音順）

岩倉洋一郎 会員（東京理科大学）

黒澤 努 会員（鹿児島大学）

2) 安東・田嶋賞（1名）

高橋 智 会員（筑波大学）

「Large Maf 転写因子群の機能解析とヒト疾患との関連解明」

3) 奨励賞（2名、五十音順）

奥村和弘 会員（千葉県がんセンター研究所）

「多段階皮膚発がんマウスモデルを用いたがん修飾因子の同定」

倉岡睦季 会員（日本獣医生命科学大学）

「イヌ筋ジストロフィーモデルにおける新規の治療評価指標開発を目指した研究」

4) 2019年 Experimental Animals 最優秀論文賞 (1編)

橋本晴夫、江藤智生、山本真史、位高美香、後藤元人、香川貴洋、小島圭介、川井健司、秋元敏雄、高橋利一

Development of blastocyst complementation technology without contributions to gametes and the brain

「生殖細胞および大脳に寄与しない胚盤胞補完法技術の確立」

(4) 2019年日本実験動物学会国際賞の選考を行った。

2019年受賞者 (4名)

中国	: Mr. Shun Li
インド	: Dr. Kiran Bendale
韓国	: Mr. Haengdueng Jeong
台湾	: Dr. Chao-Yuan Hsu

VIII. 研究・調査活動

編集委員会、学術集会委員会、財務特別委員会、国際交流委員会、広報・情報公開検討委員会、動物福祉・倫理委員会、定款・細則・規定等検討委員会、実験動物感染症対策委員会、教育研修委員会、実験動物管理者研修制度委員会、人材育成委員会、将来検討委員会、動愛法等対策委員会、外部検証委員会を設置し、活動を行った。

IX. 定款の変更

外部検証専門員の認定・登録を実施するため、定款の(事業)第4条1項に資格付与を追加した。

X. 動物実験に関する外部検証

令和元年度動物実験に関する外部検証事業として21機関(国立大学5機関、公私立大学14機関、文部科学省所轄外2機関)の外部検証を実施した。(外部検証委員会担当)

XI. 外部検証のための人材育成

ナショナルバイオリソースプロジェクト「外部検証促進のための人材育成」課題を推進し、国動協、公私動協及び日本実験動物学会から推薦された外部検証専門員候補者41名が外部検証促進のための人材育成講習会を受講した。

XII. 関連学協会との連携

- (1) 日本学術会議、生物科学学会連合及び動物実験関係者連絡協議会の活動に協力した。
- (2) 国内の関連学会・協会との学術・情報交換を進め、その活動に協力した。

- (3) 国際実験動物科学会議 (ICLAS) 及びアジア実験動物学会連合 (AFLAS) における活動を継続した。
- (4) 米国実験動物学会 (AALAS) など、海外関連学協会との学術・情報交流を推進した。
- (5) 公益財団法人実験動物中央研究所 ICLAS モニタリングセンターおよび日本動物実験代替法評価センター (JaCVAM) など実験動物・動物実験に携わる機関の活動に協力した。

XIII.その他

- (1) 令和元年度維持会員懇談会を実施した。(財務特別委員会担当)
講演会「血液腫瘍治療の最前線」
話題提供「ナショナルバイオリソースプロジェクト・ラットの紹介とラットの生殖工学技術」
令和元年11月15日、中央大学駿河台記念館、
参加者：62名(維持会員54名、非会員8名)
- (2) 第8回実験動物科学シンポジウムを開催した。(学術集会委員会担当)
「動物モデルを用いた感染症研究」
令和元年10月11日、東京大学農学部弥生講堂一条ホール
参加者：58名(会員31名、非会員27名)
- (3) 第66回大会期間中に3つのLASセミナーを開催した。(教育研修委員会担当)
 - ① 『日本実験動物学会の社会貢献活動：高校生物教育』(参加者：92名)
 - ② 『今更聞けないゲノム編集：遺伝的品質管理』(参加者：177名)
 - ③ 『賢く使おうリソース・インフラ』(参加者：62名)参加者合計：331名
- (4) 第12回実験動物管理者等研修会を開催した。(実験動物管理者研修制度委員会担当)
令和元年9月4-5日 東京大学農学部3号館4階会議室
参加者合計：67名(会員4名、維持会員団体職員11名、非会員52名)
- (5) 動物実験の外部検証：令和元年度の実施準備に向けた事前説明会を開催した。(人材育成委員会担当)
令和2年1月24日 東京大学弥生講堂一条ホール
参加合計：127機関、228名
- (6) 第69回日本実験動物学会総会の大会長を選出し開催概要を決定した。
会期：令和4年5月18-20日(予定)
会場：仙台国際センター(仙台市)(予定)
大会長：三好一郎(東北大学)